

# 「街フォトスクラップ」

みんなのイマをパシャ!!



**産業** **鹿** 屋の食材の可能性を探る

9月14日、フランス料理シェフの坂井宏行さんら県内外の料理関係者が、新しい食材を掘り起こす目的で、大隅地域の農畜水産物の生産現場を視察しました。市内の視察先は日本キジ繁殖センター小倉(申良町細山田)の日本キジ、南橋商事(野里町)のかのや紅はるか、ふくどめ小牧場(獅子目町)の幸福豚など。坂井さんは「可能性が大きい食材ばかり」と評価していました。



**寄贈** **郷** 土のために寄附金を贈呈

9月14日、市役所で相生設計株式会社(兵庫県)から市への寄附金贈呈式が行われました。これは、同社取締役の山根マキ子さん(旧姓:郷原・写真中央)が鹿屋市の出身で、郷土の振興のためにとの想いから、昨年、鹿屋市バドミントン協会へ100万円を寄附されたのに続き、今年は鹿屋市へ1,000万円の浄財を寄附されたものです。

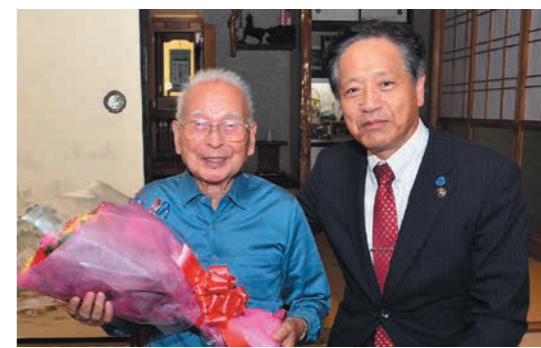


**福祉** **高** 齢者の生きがいに関心を寄せる

9月14日から22日、市役所で「一得!高齢者ねんりん生き活き週間」が開催されました。これは高齢者の福祉サービスや生きがいについて関心を高めるために、初めて行われたイベント。期間中、会場では福祉用具や高齢者作品などの展示、認知症などについて気軽に語りあうオレンジカフェなどがあり、幅広い年代の人が交流しにぎわいを見せていました。



**福祉** **元** 気な100歳を祝福



9月15日、今年度100歳になる元気な高齢者のお宅を市長が訪問しました。この日訪問したのは、寿8丁目の上仮屋シヅエさん宅と、池園町の川田政彦さん宅。上仮屋さんは好き嫌いせず良く食べ、のん気な性格が長生きの秘訣だと話しました。健康に日頃から気を付けているという川田さんは、今でも故障した電気製品を修理し、周囲を驚かせているそうです。



**訪問** **全** 国大会優勝の栄冠に輝く

9月12日、野里町の廣森操さん(中央)が、鹿屋グラウンド・ゴルフ協会の笠毛兼彦会長(右)と共に市役所を訪問しました。これは、9月の「第30回全国グラウンド・ゴルフ交歓大会島根県大会」に出場し、廣森さんが個人の部で優勝したことから行われたもの。参加者1,728人による激闘を勝ち抜き、鹿屋市から初の快挙を達成した廣森さんは、「周りの皆様のおかげです」と話しました。



**文化** **舞** 台芸術を体験しながら学ぶ

9月20日、大始良中学校で、演出家の松永太郎さんによる演劇のワークショップが行われました。これは市の学校芸術鑑賞事業の一環で行われているもの。松永さんら俳優5人が即興芝居を披露した後、生徒がパントマイムを発表し、表現することの難しさや楽しさを体験しました。松永さんは「舞台はいつもの自分と違う自分になれる場所。この体験を生かしてほしい」と語りました。



**安全安心** **鹿** 屋で暴力追放県民大会

9月5日、市文化会館で「第26回暴力追放県民大会」が開催されました。これは暴力追放を県民総ぐるみで推進するために行われたもの。この日は暴力団排除活動功労者・団体表彰が行われた後、暴力団追放をうたった大会宣言がなされました。このほか、劇団たかくまによる寸劇「暴力団に断固NO!」や、西郷隆盛のひ孫・西郷隆夫さんの講演などが行われました。



**訪問** **世** 界のスポーツ研究者が集結

9月14日、「鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー」の受講生14人が市役所を訪問しました。これは、アジアでのオリンピック教育プログラムの開発とスポーツ界のグローバル人材を育成することを目的に行われているセミナーで、今回で6回目の開催。受講生は、同大学の最先端の講義や演習のほか、鹿屋の文化や食なども体験しました。



**スポーツ** **秋** 空の下でバレーボールの熱戦

9月10日、平和公園陸上競技場で「第51回申良町民バレーボール大会」が開催されました。この大会は、屋外で開催されるのが特徴で、今年で51回目の伝統ある大会。親子・チビっ子・壮年の3部門に30チームが参加し、熱戦を繰り広げました。各部門の優勝チームは次のとおりです。  
○親子=下方限 ○チビっ子=十三塚 ○壮年=細山田



**地域** **災** 害への対応手順などを確認

9月3日、高隈地区コミュニティ協議会が、高隈地区全域を対象とした避難訓練を実施しました。これは、平成28年9月の台風16号による被害を受け、地域の災害対応力強化や防災意識向上など図るために、コミュニティ協議会として初めて主催したものです。訓練には約300人が参加し、情報伝達や避難所開設手順などを、再度確認しました。



**地域** **進** 駐軍上陸の歴史を語り継ぐ

9月3日、高須町で講演会「進駐軍 高須金浜上陸を語る」が行われました。これは、終戦後の昭和20年9月4日に進駐軍約2,500人が金浜海岸に上陸した歴史を語り継ぐために、高須町内会が毎年開催しているもの。南九州新聞社の米永新人さんによる講演では、鹿屋での平和的進駐の歴史的意義が語られ、60人の参加者は熱心に耳を傾けていました。